

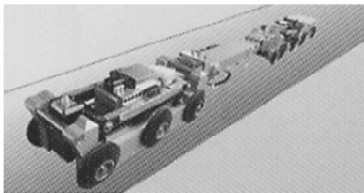
多くの実績で高い評価を得ている

浸水対策技術や老朽化対策技術

積水化学工業

積水化学工業（東京都港区虎ノ門二丁目三・七・虎ノ門2丁目タワー、603―1五二―074―11環）は、東京ビッグサイト（七月二十八日～三十一日まで開催された「下水道展」で、「管理の時代に対応した積水化学の課題解決」）建設から管理、そして使う時代へくをテーマに、施設の老朽化や頻発する豪雨など全国自治体が直面する課題への対応策や、下水道管路を使った再生可能エネルギー活用システム、未普及地域に適した低コストな管路システムなどを出展、来場者より話題を呼んだ。

また、包括的な管路管理業務を担っている大阪府河



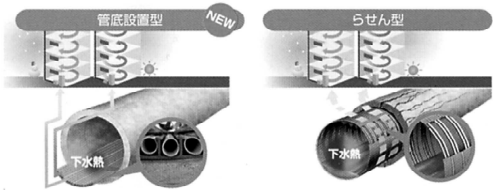
衝撃弾性波検査システム



レインステーション

内長野市、同大阪狭山市、北海道岩見沢市の物産も紹介し、地域活性化の一助となるべく工夫を凝らしている。こうした取り組みが評価され、出展者表彰では昨年の最優秀賞に続き「優秀賞」に選ばれた。

下水道事業は「建設」から「管理」に主軸が移ってきている。今、民間企業に求められるのは、自治体や施設ごとに異なる現況を正確に把握し、その結果を踏まえて最適な解決策を自治体の方々とともに考え、提案できる、技術力と提案力である。同社では、こうしたニーズに対応し、すでに多くの実績がある浸水対策技術や老朽化対策技術などの他に、今後は下水道を取り巻く社会的課題を解決するために、下水道ストックをモノとして管理するだけ



エスロヒート下水熱

でなく、資産として使いこなすことが求められていることから、下水道管路の新たな活用方法として、下水熱利用システムなどの開発を行っている。

なお、同社製品の一例を紹介すると――。

未利用エネルギー活用システム「エスロヒート下水熱（らせん型・管底設置型）」は、下水道から熱エネルギーを回収することで、冷暖房や給湯に必要な電力を少なくするシステムで、化石燃料の消費やCO₂排出を抑制でき、地球温暖化防止にも役立つ。耐震化や老朽化対策とし

ての管路更生工事と同時に敷設可能な「らせん型」と、管路更生の必要がない場合どんな管断面形状でも適用可能な「管底設置型」により、下水熱の利用拡大に貢献する。

浸水対策の「レインステーション」は雨水を地下へ浸透させ浸水被害を軽減。コンパクトな設計で道路際にも設置できる上、目詰まりによる浸透能力低下も抑える。

落差処理工の「ドロップシャフト」は、らせん案内路で強制的に渦流を発生。空気の流れ込みが少なくゲリラ豪雨時の人孔蓋飛散リスクの低減に貢献する。

未普及対策の「真空下水サイバックスシステム」は、真空と大気圧の差を利用



<http://www.eslortimes.com>